明治以後 本邦土木と外人

法人團社
土木學會

登録	昭和40年6月11日
番号	第 1950 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館

正誤表

頁	行	誤	正
十	下段 八	ルノー	一四一
〃	一二	ギール	一五一
〃	一四	テー	一五三
八	下段	ワルフキールド	二〇二
九	上段一二	ナウマン	二三二
〃	一三	シルビア	二三二
	下段一一	工部大學校書嚮	二六七
〃	一四	大學生の…由來	二八一
	一五	内務省…書名表	二八四
四		「同規則の發布。は」の、を削る	
五	欄外	「…教師。雇傭」の、を削る	
四二	四	メルー紙上は　メール紙上	
一四四	一二	ウィルの摘要中歸國不明は　歸國年不明なり	

頁	行	誤	正
一四四	一五	アルンストの摘要は「主として本寮在勤、十三年以後歸國と思はる。」と訂正	
	一六	マイトレクトの摘要は單に「不明。」と訂正	
一四九	欄外	チボジー佛人（同左。）	（同右）
一八六	欄外	利根運河、設計	利根運河の設計
二五二		ユーイングの—八七八は一八七八の誤	
二五三		ウェストの摘要　瑞寶賞は瑞寶章の誤	
		セルヴキントンの—八七三は　一八七三の誤	
二五九		リッヂウェー Ridgeway は　Ridgeway の誤	
二六一		アルンストの　一八七三頃は不明	一八七三頃—不明
		マイトレクトの　一八七三頃は不明	一八七三頃—不明
二八二	一一	當時東京大學には	當時工部大學には
二九一	上段　六	二一、一九、一一	二一、一九、一一

帝國土木學會

序

明治維新の事成るや、諸般の制度未だ整はざるに、早くも歐米文化攝取の要に迫られ、我が人材の彼地に渡り、或は視察し或は留學するもの頗る多く、以て我が國文化の向上に貢獻するところ甚だ大なるものありしが、就中教育、殖產興業、治水、土木、鐵道、橋梁等、直ちに實施するを必要とするものに於いては、各方面に亙り歐米より工師工手を招聘して、其の指導を受けたるもの亦夥しきものありき。顧ふに當時來朝せる之等の工師工手は、何れも皆彼の地に於いても優秀なるものなりしが如し。之れ實に彼等の本國に於いても、我が國に派遣するものに就きては、誠意を以て學術人物共に優秀なるを選拔したるに依らずんばあらず、卽ち之れを事實に徵するも、其の成績の極めて佳良なるのみならず、彼等より其の學問技術を傳習したる邦人は、皆我が國に於ける優秀なる先覺者として、明治文化の大成に貢獻せるを以てしても知るべきなり、此の如きは、彼の國々に對して吾人の常に深く感謝するところなると同時に、後進國に對する吾等の義務も亦斯くの如くなるべきを痛感するものなり。

然るに此等の功勞ある多數外人の事蹟に至つては、之を調査せるもの未だ多きを聞かざ

るのみならず、其の功績の湮滅に歸するものまた漸く多からんとす。茲に於いて我が土木學會は之を遺憾とし、昭和十三年六月、土木關係の外人功績調査を企てたり、其の趣意書に曰く

招聘外人遺功調査に關する趣意書

我が國現時に於ける文化の隆昌を來したるは、泰西文化の長を取り短を補ひ克く是を同化せしめし不斷の努力の賜なりと雖も、我が國を指導し泰西文物の移入を援助せし外人の功は見逃す可らざる事實にして、之が遺功を調査し其の資料を蒐集して後世に傳へ、永へに感謝の意を捧ぐるは我が國民道德の本義に副ふのみならず、國際親善に稗益する處大なるものあるべし、而も他日我が文明史編纂上貴重なる資料たるを失はず。

爾來我が國に功績ある外人の小傳の刊行或は記念銅像等の建設せられたるものなきにしも非ざれども、其の範圍狹少にして顯著なる功勞者を網羅するに至らず、此の儘にして推移せむか歲月と共に文獻は散逸し、往時を知れる故舊は物故し其の功績を傳ふるに由なきに至らむ、此處に我が土木學會は委員會を設け、明治年間に我が國に招聘せられたる土木工學に關係ある外人の遺功を調査せむとす。云々

依つて會內に委員會を設け、調査を進むること約二年、漸く成れるもの卽ちこの一編なり、然れども之が調査に當りては、資料の缺乏著しく、且つは外人のことゝて手懸り至つて少く、今日にして之を看れば、人物の數に於いて、又その事蹟に於いて、企圖を滿足せしむるに足らず、遺憾尠からざるものありと雖も、完璧は之を他日に期し、敢て之を公刊し、以て本會の意の在る所を闡明すると共に、聊か以て彼等外人の我が國に盡せる功績に對し感謝の意を表せんと欲す。

本書は外人の事蹟を述ぶるを主旨とすれども、之に伴ひ、其記事中に於て、明治初年に於ける我が邦の土木事業の狀況と、各種工作物の創始年月を闡明ならしむるに努めたり。

昭和十六年九月

社團法人　土木學會

土木學會外人功績調査委員會委員

（アイウエオ順）

委員長・那波光雄
副委員長　眞田秀吉

委員

安藝杏一　赤木正雄　阿曾沼均　（故）伊藤長右衛門
櫪木寛之　久保田敬一　辰馬鎌藏　中川吉造
丹羽鋤彦　福田次吉　（故）眞島健三郎　名井九介
茂庭忠次郎　山内靜夫　山崎匡輔

幹事

江澤甚一

明治以後 本邦土木と外人

目次

第一編　學校の部

明治初期の學校と外人……三
一、東京大學……三
二、工部大學校……九
三、札幌農學校……一四

外人略歴

1、ホーレス・ケプロン（米國人）……二二
2、トーマス・アンチセル（米國人）……二七
3、デェームス・アール・ワスソン（米國人）……二九
4、エドウキン・ダン（米國人）……三二
5、ウイリアム・ホイーラー（米國人）……三四
6、セシル・エッチ・ピューボデイ（米國人）……三六
7、エー・ダブリュー・アンタンク（米國人）……三七
8、ウインフイルド・エス・チャプリン（米國人）……三七
9、デェームス・アルフレッド・ユーキング（英國人）……三九
10、ジョン・アレキサンダー・ロウ・ワデル（加奈陀人）……四一
11、ヘンリー・ダイエル（英國人）……四八
12、エドワード・ダイバース（英國人）……五二
13、ダブリユー・イー・エルトン（英國人）……五四
14、ジョン・ミルン（英國人）……五六
15、ジョン・ベリー（英國人）……六三
16、トーマス・アレキサンダー（英國人）……六四
17、チャレス・デッキンソン・ウエスト（英國人）……六六
18、ウキリアム・ケー・バルトン（英國人）……六九
19、ドクトル・ケー・ヘーフェレー（獨逸人）……七三

20、アメリゴート・ホーフマン（墺太利人）……七五
21、ウイリアム・エッチ・バー（米國人）……七六

第二編　鐵道の部

本邦鐵道初期と外人……八一

外人略歴

1、エドモンド・モレル（英國人）……八九
2、ヂョン・ダイアック（英國人）……九三
ロジルス（英國人）……九四
グレー（英國人）……九四
ノルデンステット（英國人）……九四
ブランドル（英國人）……九四
デー（英國人）……九四
3、ヂョン・エングランド（英國人）……九四
4、チャールス・セッパルト（英國人）……九五
5、ウイリアム・ゴールウェー（英國人）……九六
6、フレデリック・コリール・クレスチー（英國人）……九七
7、オーソル・スタンホーフ・オルドリッチ（英國人）……九七
8、セオドル・シャン（英國人）……九八
9、ダブリユ・カーギル（英國人）……九九
10、アール・ヴイカース・ボイル（英國人）……一〇〇
キンドル（英國人）……一〇一
エス・スペロー（葡萄牙人）……一〇一
11、ライマル・ジョンス（英國人）……一〇四
12、テー・アール・セルヴイントン（英國人）……一〇四
13、ヂョン・マクドナルド（英國人）……一〇六
14、グレゴリー・ホッサム（英國人）……一〇七
ジョン・チャンブルス（英國人）……一〇七
15、ウォルトル・フィンチ・ベーヂ（英國人）……一〇八
16、ジョルジ・ダラム（英國人）……一〇八
17、ウォルトル・マカルセー、スミス（英國人）……一〇九
18、デー・パーセル（英國人）……一〇九
19、フランシス・ヘンリー・トレヴィシック（英國人）一〇九
リチャード・フランシス・トレヴィシック（英國人）一一〇
グレー・マクドナルド（英國人）……一一〇
20、フレデリック・ライト（英國人）……一一〇
21、ジョセフ・ユー・クロフォルド（米國人）……一一一
シ・デー・ブロウン（米國人）……一一五
エッチ・シー・ホロルウエト（米國人）……一一五
ジョン・レノルヅ（米國人）……一一五
デー・チストリクランド（米國人）……一一五
ジョン・ホウイラン（米國人）……一一五
ステッフェン・デー・ウイン（米國人）……一一五
22、チャールス・アセトン・ダブリュー・パッネル
（英國人）……一一九
23、ヘルマン・ルムショッテル（獨逸人）……一二三
ルイ・ガランド（獨逸人）……一二四
カール・ジウエシング（獨逸人）……一二四
24、フランツ・バルツェル（獨逸人）……一二六
25、ルドルフ・ブリスケ（獨逸人）……一三〇
26、ロバート・リッヂウエー（米國人）……一三四

第三編　河川、港灣、燈臺の部

一、明治初期の河川、港灣、燈臺と外人……一三九

二、土木寮傭蘭人工師の事及び土木局明治初期の狀況……一四三
三、内務省土木局明治初期の狀況……一四六
四、明治初年の内務省土木局長……一四八

外人略歴

1、ルノー（佛國人）……一四八
フランソアー・レオン・ヴェルニー（佛國人）……一四九
フロラン（佛國人）……一四九
チボジー（佛國人）……一四九
ギール（英國人）……一五一
2、アール・ヘンリー・ブラントン（英國人）……一五一
テー（英國人）……一五二
デー・ステブンソン（英國人）……一五二
マクヒン（英國人）……一五三
ブランドル（英國人）……一五三

パリー（英國人）……一五三
ジェームス・マクリッチ（英國人）……一五三
3、ファン・ドールン（和蘭人）……一五五
4、イ・ア・リンドウ（和蘭人）……一七〇
5、ゲ・ア・エッセル（和蘭人）……一七二
6、ヨハネス・デレーケ（和蘭人）……一七四
7、ア・ハ・テ・カ・チッセン（和蘭人）……一八二
8、バース・ウェストル・ウイル（和蘭人）……一八三
9、イ・ア・カリス（和蘭人）……一八三
10、デー・アルンスト（和蘭人）……一八三
11、ファン・マイトレクト（和蘭人）……一八四
12、ハ・エル・ルーエンホルスト・ムルデル（和蘭人）……一八五
13、ヨハン・ゴタルト・ファンゲンド（和蘭人）……一八九
14、シー・エス・メーク（英國人）……一九二

第四編　道路、橋梁、上下水道の部

一、明治初期の道路、橋梁（都市計畫及び潛函を含む）……一九七
二、明治初期の上下水道……二〇〇

外人略歴

ボールス（米國人）……一九九
シューメカー（米國人）……一九九
レプコ（米國人）……二〇〇
スミス（米國人）……二〇〇
バーレンタイン（米國人）……二〇〇
ヂェンキンス（米國人）……二〇〇
1、エー・ヂー・ワルフォールド（米國人）……二〇一
2、ゼームス・アール・クラーク（米國人）……二〇四
3、エヌ・ダブリユー・ホルト（米國人）……二〇五
4、ヘンリー・スペンサー・パーマー（英國人）……二〇七
ハロルド・デー・ラスロップ（米國人）……二一〇
フランク・ウオルキン・ショウ（英國人）……二一〇
エフ・マクナップ（英國人）……二一〇
ジョンス（英國人）……二一〇
バクボルド（英國人）……二一〇
ジョンソン（英國人）……二一〇

5、サミユル・ヒル（米國人）……二一一
6、チャールズ・エー・ビーアド（米國人）……二一六
7、エー・エッチ・ヒューズ（米國人）……二二五
8、エル・アール・クラフト（米國人）……二二六
9、エッチ・エングランダー（米國人）……二二七

第五編　雜の部

一、明治初期の測量……二三一
二、明治初期の鑛山と軌道……二三三
三、人力車……二三四

外人略歴

マクウェン（英國人）……二三一
エドムンド・ナウマン（獨逸人）……二三一
軍艦シルビア（英國）……二三一
1、ウォリアム・ビー・ブレーキ（米國人）……二三五
2、アール・ポンペリー（米國人）……二三五
3、エラスムス・エッチ・エム・ガール（英國人）……二三八
ゼームス・スコット（英國人）……二四一
4、ベンヂャミン・スミス・ライマン（米國人）……二四一
ヘンリー・エス・ムンロー（米國人）……二四三
5、ポルネ・ゴウジャウ（米國人）……二四六
ジョセフ・エッチ・ダウス（米國人）……二四七
エドワルド・バレー（英國人）……二四七
6、モルレー・エス・デー（米國人）……二四八
7、ヂョナタン・ゴーブル（米國人）……二四八

附錄

一、各人功績摘要……二五一
二、工部大學校昔噺……二六三
1、明治初年の工業と工部大學校のことども
2、學生々活の面影
三、大學生の制服制帽徽章の由來……二七七
四、內務省雇傭工師の報告書名表……二七九